

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/12/05号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



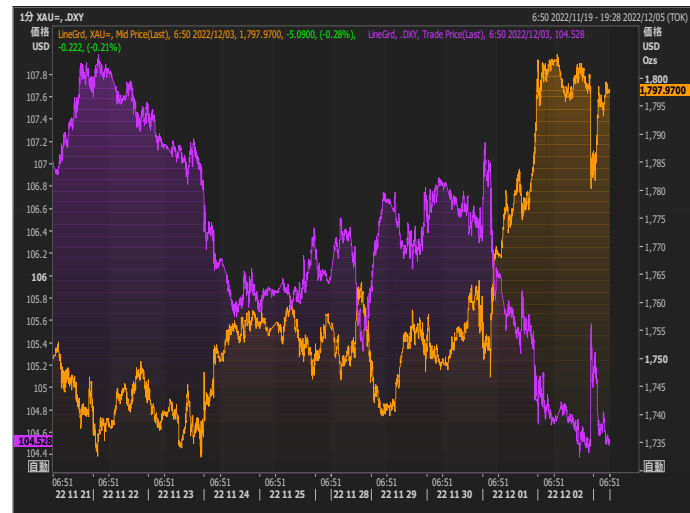
【ゴールドマーケットの現状】

パウエル議長ハト派発言で1800ドルへ

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



日本時間木曜日早朝のパウエル議長のスピーチがハト派的な内容でした。12月の会合で金利上げのスローダウン、つまり金利上げ幅の縮小がありえるとし、しかし、もっと重要なのはインフレの抑制のために金利の高い状態をどれくらい保つ必要があるのか、という点だということでした。これがマーケットには「ハト派」と受け取られてドル売りにつながり、長期金利も急落、株価は上昇、ゴールドはスピーチ直前の1750ドルから1770ドルへ急騰しました。金利上げのスピードを下げるということを好感して、マーケットはリスクアセットへと資金を向けました。これが金曜日にも通して続き、ドルは下げ続け、金利も下げ続け、ゴールドは1800ドルを越えるレベルまで上昇しました。そして雇用統計をむかえた金曜日夜、非農業部門雇用者数（NFP）は26.3万人増と市場予想の20万人増よりもよい数字となり、ドルが買われ、金利も上昇、ゴールドは1800ドルから瞬間的に1780ドル割れとなりましたが、その後すぐに上昇、一週間の終わりは1797ドルと1800ドル直前まで戻して終わり、雇用統計の数字にも関わらず、その地合いの強さを示すような形となりました。おそらくマーケットはショートカバーが終わり、短期的トレンドフォロワーもsell on rally ではなくbuy on dips に傾くつつある状況だと思います。この1800ドルというレベルを固めることができれば、それら短期トレーダーも本格的な買い手に回るのではないのでしょうか。カナダのTD Securities が金融情勢を背景に中期的ポジションとしてゴールドとシルバーのショートを宣言していましたが、シルバーはストップアウト（損切り買い）をしたと発表しました。ショート筋がスクイズを受けるようなマーケットになってきたと言えます。来年は高値を追いそうなマーケットになってきました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

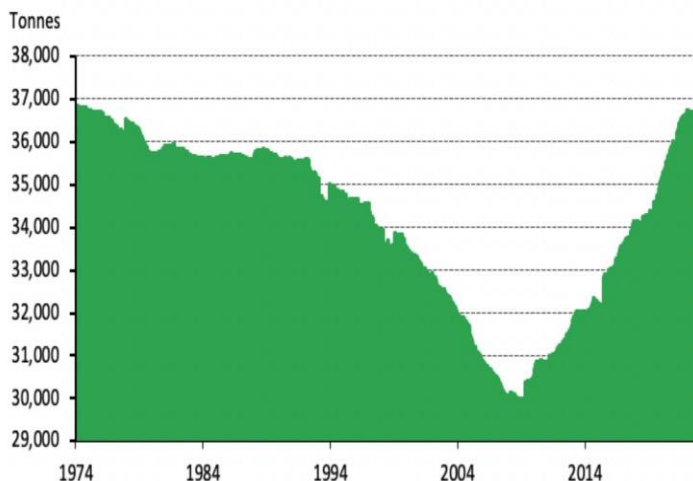
【マーケット・トピック】

「ゴールド：中央銀行の買い」

筆者がトレーダーとして最前線で取引をしていたころ、1980年代後半から2010年ころにかけては中央銀行と言えばゴールドの売り手でした。彼らは欧米のAAA（トリプルA）銀行に売りオーダーを出し、それで我々日本勢は売られ、ゴールドは下がりいつも損をするという立場にあり、正直全くよいイメージがありませんでした。しかし、2008年頃のリーマンショックを契機にして、欧米の中央銀行はゴールドの売却をストップし、それに変わって新興国の国々のゴールドの購入が目立ってきました。下のグラフは中央銀行のゴールド保有量の変化ですが、そのゴールドに対する中央銀行の姿勢の変化が見事に現れています。現在、その保有量は1970年半ばのレベルにまで回復しており、今後もまだまだ増えていきそうな勢いです。国際情勢の混迷化に伴うドルの相対的価値の低下がその背景にあります。中国やロシアといった欧米とその価値感を異とする国々は当然ドルよりもゴールドをその外貨準備として持つことは明白です。ゴールドの強気要因です。

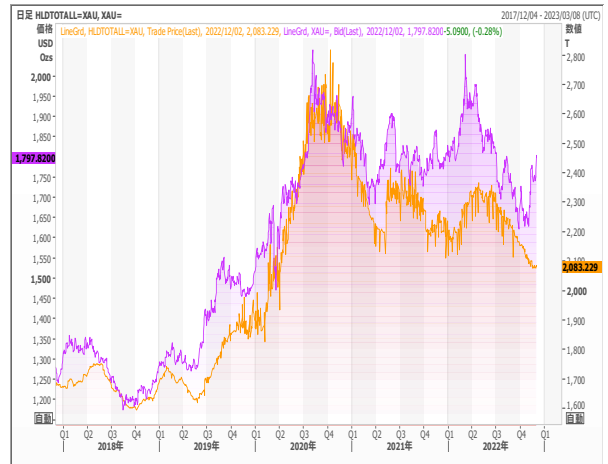
（中央銀行のゴールド保有量の変化）

Global central bank gold reserves are back to mid-1970s levels*



*Data to 31 October 2022 based on available data and WGC calculations.

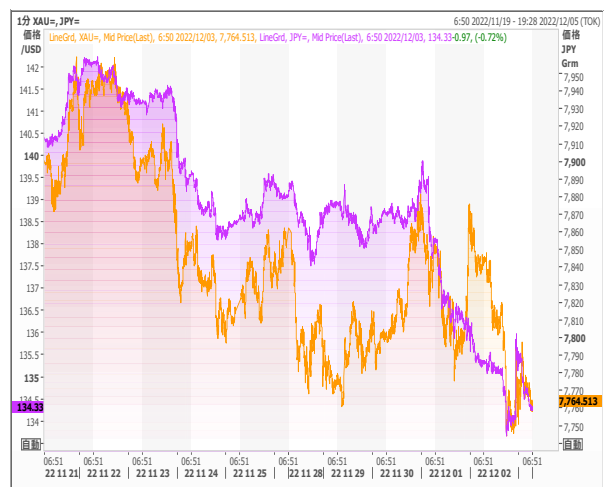
Source: IMF IFS, Respective Central Banks, World Gold Council



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

